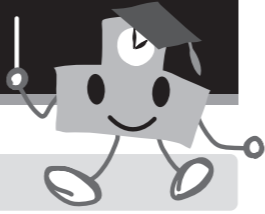


高校の事例 中央区 大通高校

地域を自分の子どもと思って大切に。地域の環境づくりに参加することで、地球環境を考えるきっかけに。

企業、町内会、まちづくりセンターと連携しアダプト制度の考え方のもと清掃活動を展開。地域の環境作りに貢献することで、地域環境を考える心を育てる。



内容 地域を子どものように大切に思う心を育てる

本校では生徒への環境保護の意識付けのため、町内会・大通まちづくりセンターと連携し「学校周辺ごみ拾い活動」を実施している。平成20年度に開始し、21年度からはよりいっそう活発な活動の促進を図るため、ある企業に相談したところ、中央区が行っている「中央区道路アダプト制度」の話を聞き、参加することとなった。アダプト制度は地域を子に見立て養子縁組をし、大切に面倒をみるという考え方をもとにした制度である。

本校では、春に新入学生が全員でごみ拾いを実施するほか、年間を通じて部活動に所属する生徒がごみ拾いを行ったり冬には砂まきなどを実施しており、地域

の清掃活動を通じて、美しく安全な地域環境づくりに貢献している。



春の清掃活動①

効果 地域の環境づくりが環境意識を高める

本校は平成22年で3年目の新設校ということで、校舎自体の作りが地下の冷気を利用した冷房方法を取るなどエネルギーを無駄なく使う構造となっている。また、ソーラーパネルも設置し節電・節水にも取り組んでいるため、日頃からエコを意識しやすい状況にある。

ごみ拾い活動を通して地域の環境づくりに参加し、日頃お世話になっている地域の方との交流を図ることで、日常生活の中のエコとともに、地域の環境保護に対する意識も高まっている。本校は*アースデイの会場にもなっているが、このイベントには主催メンバーに加え、多くのボランティア有志も参加しており、生徒に環境意識が根付いてきている。



本校が会場となって開催された「アースデイEZO」のイベント

*アースデイとは、地球のことを考え、行動する日です。昭和45年から続くアースデイは大人から子どもまで、世界184の国と地域、約5,000箇所で行われている世界最大の地球フェスティバルです。北海道では、平成19年からアースデイEZOが、北海道内各地で行われている取組をつなぐ活動を行っています。

今後 地域への愛着の心から地球環境について考える

地域へ貢献するという観点から、春に行う1年生の一斉清掃や部活動生徒によるごみ拾いについては継続するとともに、さらに授業や生徒会を通じて多くの生徒に社会体験を増やし、活動を広げていきたいと考えている。「拾えば街が好きになる運動」の考え方のように地域の環境づくりに貢献する中で、生徒たちが地域への愛着をもち、さらには地球環境を考えることができるようになって欲しいと考えている。

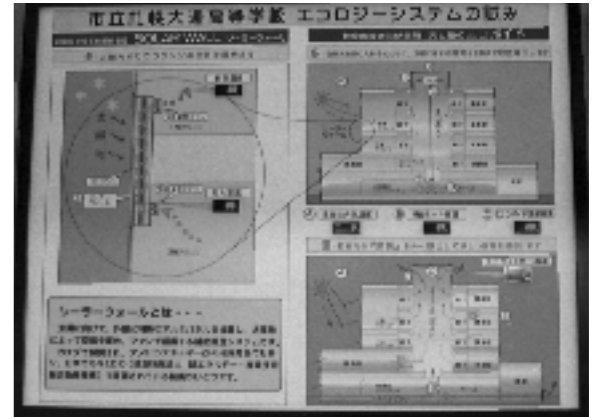


春の清掃活動②

札幌大通高校のエコロジーシステム

札幌大通高校では、太陽光で空気を温める壁「ソーラーウォール」を校舎の3階と4階の間に設置している。

ソーラーウォールとは、太陽に向けて、外壁に特殊なアルミパネルを設置し、太陽熱によって空気を温め、ファンで送風する補助暖房システム。カナダで開発されたこのシステムは、アメリカエネルギー庁の推奨商品でもあり、日本でもNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）で評価されている技術のひとつである。また、校舎の吹き抜け空間である「エコボイド」は、夏には校舎内の「熱気」を外へ放出して涼しい空気を誘引し、冬は、自然光を取り入れるとともに、頂部に集まる暖気を一階まで吹き下ろすことで暖かい空気を循環させている。



広げよう つなげよう 環境学習の輪



実施校から メッセージ

本校は、これまでの高校では十分に対応できなかった生徒一人一人の興味・関心、進路希望に柔軟に対応するため、全日制・定時制という枠組みにとらわれない新しいシステムと教育内容を取り入れたユネスコスクールです。ユネスコスクールとは、昭和28年、ユネスコ憲章に示された平和・国際理解等の理念を実現するために設けられた国際的な教育共同体です。現在は世界179カ国、約8,500校が加盟しています。渡日・帰国生徒など多様な生徒が学びを共にする本校では、様々な国の文化や歴史に触れることができ、自分たちの身近な環境だけでなく、世界環境にも目を向けやすい体制が整っています。